

海のない北海道旭川市に生まれ育ち、受験の難易度で決めた大学(水産系)に進学し、博士課程の途中から今の職に従事している。水産土木分野の現職に十数年勤め、学位の取得に向けてそれまでの仕事のとりまとめを行っていたが、なかなか進まないでいた。そんな折、職場の先輩職員が技術士を取得したのを知った。それまで技術士については名前を知っている程度であったが、先輩職員からその内容を聞き、公立の研究員として取得しておくべき資格であると認識し直した。また、海と縁のなかった自分が水産部門の技術士となることは、自分にとって一つのケジメである気がした。

受験勉強のときには勉強会に参加し、先輩技術士から技術士としての考え方・仕事の進め方を教わった。技術士合格後、通常の業務を遂行しているとき、この考え方・仕事の進め方が、ただの受験対策ではなく本来の業務において非常に役に立っていることを実感した。研究評価調書や業務報告書が整然と分かりやすく書けるようになったと自負している。水産系の技術者として今後の研究人生を、自信を持って取り組んでいける気がしている。学位取得のほうは残念ながら進んでいないが、研究の流れや論文のとりまとめなどに、以前よりはうまく対応できるようになっているのではないかと考えている。近いうちに本腰を入れて取り組みたいと思う。

今後は、自分がそうであったように、一緒に仕事をする後輩職員に技術士というものを紹介し、受験の過程や技術士としてのあり方から、試験場全体の仕事の質を高められるように取り組んでいきたい。

## 金田 友紀(かねた ともりのり)

●水産部門(水産土木)

### 勤務先

道総研 中央水産試験場  
資源増殖部



→次号は、木村 稔さん(水産部門)

この4月から消費税が8%に上がりましたが、その消費税が3%から5%に上がった1997年(平成9年)に現在の会社に就職しました。最初の配属先は名古屋であり、大学卒業まで室蘭で過ごした私としては、新しい環境への期待よりも、この極暑の中で暮らせるのかという不安の方が大きかったことを今でも憶えています。

私はこれまで道路に関する業務が多く、道路構造物の基礎調査や軟弱地盤解析を主に行っておりました。その他にも河川や電力関連、ここ数年は高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発に携わっておりました。この時には、これまでの土や岩などの自然との対話ばかりではなく、地元の方々とうまく向き合うという貴重な経験をさせていただきました。

技術士(建設部門)は永年挑戦し続けた結果、平成22年度に取得できました。そこで、この勢いを落としたらもうチャンスは無いと思い必死に勉強し、2年後に総合技術監理部門を取得できました。建設部門の口頭試験日は誕生日と重なり面接で話そうと考えていましたが、極度の緊張で当日は忘れていました。

自然を相手にする土木業界では“自然と共生する”とか“環境にやさしく”などと言いますが、近年の自然災害の規模・頻度からすると、自然の驚異は我々のことなどお構いなく待ったなしです。一技術者として、自然に対してもう少し謙虚になって仕事に取り組む必要があると感じています。

これまで調査系一筋でしたが、この4月から設計部に配属となりました。これを機に心機一転、これまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを持ちながら日々自己研鑽し、技術士として恥じないように微力ながらも地域社会に貢献していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 近藤 桂二(こんどう けいじ)

●建設部門(土質及び基礎)  
●総合技術監理部門

### 勤務先

株式会社ダイヤコンサルタント  
北海道支社 設計部



→次号は、佐藤 明さん(応用理学部門)